



あゆみ

No. 146

平成31年 1月18日

編集 発行：茶山寮・第二茶山寮

天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766

FAX 0969-22-5090

謹賀新年



『ハレの日、ケの日』

施設長 鮑田 一夫

新年明けましておめでとうございます。天草の地は、梅の花もちらほら咲き始める穏やかな正月でした。さて、今年は平成天皇の退位、新天皇の即位、国際的なスポーツ大会の開催、統一地方選挙、国政選挙等、国を挙げての大きな行事が控えています。また二度目の東京オリンピックも来年に迫り、その準備も加速されていくことでしょう。ハレの日とケの日が生活の中にはありますが、国全体としてハレの日がここ暫く続くこととなります。

ハレの日は生活にメリハリをつけ、期待感が楽しみに繋がっていきますから必要なのですが、日常であるケの日をどう過ごすかは、人生を豊かに過ごすしていくためにはハレの日以上にさらに重要です。施設にとって行事はハレの日であり、利用者の皆さんの大きな楽しみになっています。どの施設でも利用者の皆さんが喜んでくださるよう、行事の運営、種類等工夫を凝らしていることと思いますが、さて、ケの

日はどうでしょうか？ケの日の充実にはハレの日の充実とは全く違い継続した努力を必要とします。地道な仕事です。しかしケの日を充実することこそが最も大切なことです。利用者の皆さんの生活を保障すると言うことは、ケの日を充実させると言うことです。また、それができるかどうか、その施設の支援の質を示しています。利用者の皆さんの洋服の釦は付いているでしょうか。爪は伸びていないでしょうか。毎日釦をちぎる人が仮にいたとしたら、その人にはどんな服を着てもらったら良いでしょうか。そういうことを疎かにしては、生活を保障しているとはとても言えません。茶山寮、第二茶山寮でもまだまだいたらないところがたくさんあります。小さなことに心を込めて、利用者の皆さんの生活を支えることを喜びとする姿勢を持ちたいものです。そうすれば、例え一杯のお茶であっても、利用者の皆さんは美味しく飲んでくださると思います。



サービスの現場より



『縁の下の力持ちく新春号』
支援課長 島内 寧

私は、これまで「縁の下の力持ち」という方々にスポットを当て記事にしてまいりました。意味は大まかに分かっているつもりですが、新年を迎えるにあたり、ちこちゃんに叱られる前に「縁の下の力持ち」の意味を改めて調べてみました。「縁側を下から支える柱のように、人知れず支えている存在の事を言い、表舞台に立つ事はないが、その存在無しではあり得ない、影の働き手の価値は極めて大きい」と記載されておりました。私も含め誰かに自慢したい、認めて貰いたいという気持ちで先に立ってしまいがちですが、「人知れず支え、その存在無しではあり得ない」という考え方は、日本人気質がそこには伺えます。控えめで自己犠牲をいとわれない素晴らしい行動力は、これからも必ず残していかなくはならない大事な伝統と想っています。当施設の職員は勿論ですが利用者の方も立派な影の働き手であり、その存在価値が極めて大きい事を実感する事ができました。新たな時代に向け、自己犠牲を惜しまない人を見つめる観察力を磨き、多くの方の知ってもらい、利用者の方、職員の方お互いに認め合うワクワクするような未来が築けるようこれからも頑張ります。



『くまもと障がい者芸術展』
支援副主任 田中 正行

第二茶山寮から初めて参加しました。お話を頂いた後に利用者の皆さんに目的を説明。参加を募ったところ、一人の女性利用者さんが、「私の作ったバッグを出してみたい。」と手を挙げて下さり、それならばと、「折角のチャンス、皆さんの活動を沢山の方に見て頂こう！」という事で、手芸品と故郷天草をイメージした、ちぎり絵(壁面)を出展することなりました。自分たちが作りたい物に対する姿勢や眼差しは生き生きとされており、又、周りで応援している利用者の方々も、「もうちょっと大きくした方が良いんじゃない？」とか、「こっちの色紙が良かったかなるか？」と作品に対するアドバイスなど、いつのまにやら協力し合う心が芽生えていました。最終日には制作者も含め数名の利用者の皆さんも会場を見学。後日、作者へのメッセージとして、制作者への感想が送られて来ました。早速、朝礼時に皆さんの前で報告。当人さん方は照れ臭そうにされながらも、どこか誇らし気な表情を浮かべていらつしやいました。その光景を目の当たりにされた皆さんの中には、「次は、私も出してみたい！」と意欲的な方もおられ、何か目標を持つという事は、毎日の生活や活動に対する励みの心も養って頂いたように、大変素晴らしい経験をさせて頂いたと感謝致しております。次回に向けて、どんな作品が集まってくるのか、我々もワクワクしながら皆さんと過ごして参ります。



『持ち込まない！
持ち帰らない！』
支援副主任 井立 真実

インフルエンザ流行が本格化、全国で注意レベルに！という見出しを新聞や、テレビで目にするようになりました。正直なところ「今年も来るのか！」と身構えてしまいます。昨年当施設でも、茶山寮で十七名、第二茶山寮で十八名のインフルエンザ感染者が出ました。感染された利用者さんにとつては辛い静養となりますが、元気な利用者さんにとつても、一人目の感染から終息を向かえるまで、日中の活動はもろろん、楽しみにされている行事や外出も制限されてしまい、これもまた退屈な日々となります。そのため毎年この季節になると、看護師からの手洗い、うがいの指導をはじめ、外出時のマスクの使用を実施しています。また、「持ち込まない！持ち帰らない！」の合言葉で、出勤前の職員の検温、出勤退勤時の更衣はもろろんのこ、棟内のオゾン消毒、次亜塩素酸ナトリウムによる手摺り、ノブ拭き、床拭き消毒と時間帯を決め行っています。また今年から、一人発症した場合には、予防タミフルを全員服用することになりました。利用者さんからも「インフルエンザになればつまらんもんね」との声が聞かれ、これらの作業について協力が得られています。利用者さんの健康と楽しい施設生活のため「持ち込まない！持ち帰らない！」を合言葉、職員一同頑張っています。

もちつき

十二月二十七日



杵と臼を使って、利用者さん、職員みんなで協力して、「おいしくなれ」とつきました。



女性陣は餅を丸め、きれいな形を整えています。



できあがったつきたてのお餅はみんなでいただきました。

(*^o^*)

(*^o^*)

各班忘年会



一年の労をねぎらい各班別での忘年会を行いました。
～カンパ～



鬼火焚き

1月7日

竹や木に火がつけられると勢いよく燃え上がり、時折、竹のはじける音が鳴り響きました。皆さんで、無病息災、健康を祈り煙をいっぱい頭にかぶりました。

その後は「おき」を使って餅を焼き、おいしくいただきました。



『茶山カフェ、リニューアルオープン』

支援員 濱 睦史

十二月より心機一転、オープンカフェのユニフォームをリニューアル致しました。オープンカフェの主旨は、普段外出があまり出来ない利用者の方に少しでもカフェの雰囲気施設内で味わって頂き楽しんでもらう、というものでありユニフォームもよりカフェの雰囲気を醸しだしてくれるものを選択しています。今後も本当のカフェの様な空間を作っていけるよう、アイデアを考えて行こうと思っています。

今回、ユニフォームの選択は四つ程案を持ち寄り実際に利用者の方に見てもらい多数決で形、色と決めました。自分たちで決めたユニフォームということもあり「格好いいね。」「本当のカフェに来たみたいだね。」「大変喜んでいらっしやいました。」



WELCOME



シリーズ1 日常生活の風景



赤星 信一さん

普段の生活の中では、ホールでテレビ視聴したり、他の利用者の方たちと会話を楽しまれたり、又、色鉛筆を使いながら塗り絵をしたりと元気に生活されております。



伊津野 縫子さん

あすなる班に所属されてます。今年で八四歳になられ茶山寮で一番長寿です。毎日歩行にも参加し元気に過ごされています。編み物も上手で膝掛けを完成されました。



井手口 秀彦さん

元気な声で皆とお話されるのが大好きな秀彦さん。ちよつと度が過ぎて、他の方々に怒られちゃうのがたまに傷ではございますが、相手を思いやる優しい気持ちは第二茶山寮一と言っても過言ではありません。

行事予定

一月 二六日 障がい児(者)

口腔ケア実地実習(茶山寮)

二九日 グリーンクリーン活動

三十日 管内研修

二月 一日 豆まき

十四日 天草地区職員合同研修会

二十七日 亀川小学校駒打ち体験

三月 四日 雛祭り交流会

二六日 生活・作業

功労者表彰

二十七日 花見会

編集後記

一年のスタートです。今年の目標を決めている方も多いのではないのでしょうか。

私は、この一年「笑っていたい」、「笑顔でいたい」、「笑顔にさせたい」と思っています。

『一日一笑』愛想笑いではなく心から笑い、誰かを笑顔にしよう、共に笑い合おうというこの言葉を胸に抱いていきたいと思えます。

寒い毎日が続いています、皆さんは体調など崩されていませんか？インフルエンザも流行期です、どうぞ

ご自愛ください。本年も本誌「あゆみ」をご愛読下さい。

